



八学光星高男子バスケットボール部の練習に参加し、
母校の後輩と共に汗を流す青森ワッツの駒沢颯(左)
=18日、同校体育館

ワッツの駒沢(三沢出身) 母校光星高訪問

「将来的にはB1で」

バスケットボール男子B2東地区の青森ワッツに所属する駒沢颯(三沢市出身)が18日、母校の八学光星高を訪れ、中村良寛校長らに2021〜22年シーズンの結果などを報告。プロ生活1季目について「なかなか試合には勝てなかったが、厳しい環境でプレーできたのは、いい経験になった」と充実感をにじませた。

駒沢は20〜21年シーズンに特別指定選手としてワッツに加入し、今季からプロとしてのキャリアをスタートさせた。チームは今季通算5勝47敗で、東地区7チーム中最下位と成績が低迷したが、駒沢は49試合に出場し、626得点、174アシストと奮闘。得点数ではB2日本人トップの成績を収めた。

この日は、中村校長や男子バスケットボール部の佐々木彰彦コーチと懇談。駒沢は来季の所属チームは未定としつつ「将来的にはB1で活躍できるよう頑張る。日本代表に呼ばれるような選手になりたい」と意気込みを語った。

中村校長は「いずれは日本バスケットボール界を背負うような存在になってほしい」と激励した。

駒沢は同部の練習にも参加。後輩と共に、約2時間にわたって汗を流し、ドリブルやシュートなど、一流の技術を披露した。同部の川村優生さん(17)は「プロは視野が広く、状況判断が速いことが分かった。見せてもらったプレーや指導を参考に練習していきたい」と話していた。(上村公悟)